



# インドネシア・シヤカルタ発 子どもびつくり！ 紋甲イカから「舟」発見



馬込 清浩ノインドネシア・シヤカルタ在住

先日 Cirebon から紋甲イカウツマズメシヤ (トウゴウ・シヤル) トウゴウ・シヤル (トウゴウ) の形をした巻貝(月貝) 帆立貝に似た小型の二枚貝) を持ち帰りました。その中で、紋甲イカは「尾」の煙クワツクツのものが4尾もあり、冷蔵庫の中は薄氷状態。すぐに「尾」をさばへいじりました。

そこで、気づいたかもしれない情報！ 実は紋甲イカの書中では、舟が入っているんですよ。と書いても書かれていますが、これが舟の形をしていて水にも浮かぶのです。早速、娘のお手製「舟」を覗いて、娘と一緒に立ち「イカの生体はね…」なんて教えながらにどりかかりました。息子も

先んずから「わあ、お父さんすごい！」と大喜びの娘、学校に持っていく友達に見せてあげようぞです。

余談ですが、娘は「お父さんと一緒に台所で仕事するのは楽しい」といってくれます。私は共同作業の中で、家事、特に炊事を教えるようにしています。お休み中のお父さん、台所の「ミニ」をシヨウおいでです。

**馬込 清浩 フロアナー**

住所: Jl. Kucica X Block Jf-5, No. 17, Bintaro Jaya, 9, Jakarta, Indonesia  
TEL&Fax: 62-21-745-1760  
E-mail: magomemi@cbn.net.id  
URL: http://www.tokada.net/cont.html  
有望な水産関係商材の検討  
事業内容: 水産資源開発



熊田 雅憲

# 中国・モンゴル発「モンゴルの天然塩が美味いワケ」

仕事の関係上、日本と中国を頻りに行き来している私だが、半年ほど前に内蒙古の塩湖を訪れる機会があった。その時の興味深い話を報告しよう。

内蒙古の西部には、塩湖を取り巻くように巨大な砂漠が広がっている。そして飛行機からその砂漠が現在も多くの町々を飲み込みつつある。というところから。

モンゴルの自然塩、それは内蒙古の大砂漠の中に広がる巨大な塩湖から採取されている。この湖の広さが120平方キロ、単純に言えば12×10キロ四方という巨大だ。「シキア」の時代に、水を求めて砂漠をさまよった兵士が、つとつと掘り当てた地下水が、飲んでも塩辛くて飲めなかつた」とのい伝えが残っているから、その歴史は古いまだこの塩湖の塩分は、地下水脈その下の岩塩を溶かしたものであることから、いあたり

は太古では海だった。地質学者によると、岩塩と呼ばれる自然結晶するの1億年以上かかるので、さらにこの地域では年間降水量が80mm前後、しかも、雨はほとんど降らないに等しく、1年を通して灼熱の太陽が照り続ける。この太陽の力で、塩湖の水がどんどん蒸発して結晶が始まり、成長して順次湖底に沈んでゆく。太陽のエネルギーを十分に活用してきていたのだ。

この天然塩とイオン交換膜法で精製して作った普通の塩では、おしなべて人間が考えた機械装置で作る塩と人間の考えた機械装置で作る塩との差といえるだろう。

熊田 雅憲

**熊田 雅憲 フロアナー**

会社名: 加商株式会社  
住所: 東京都港区南青山5丁目4番35-1003  
TEL: 03-5766-7767  
Fax: 03-5766-7768  
Email: kumada@kasho-jp.com  
URL: http://www2.rosenet.ne.jp/laderach  
事業内容: ショッピングセンターの運営、食品及び食品原料の輸入、国内販売(天外天関連商品の関東圏販売代理店業務)

世界を股にかける「和僑タイムス」。各国に住住する特派員(おもしろカックよすぎ?)が現地で作られた生の情報を提供します。海の内から届く異国の風を感じてください。

情報提供 和僑国際ビジネスネットグループ <http://www.wakyoumail.net/>

# 地球発 和僑 タイムス

2003年  
(平成15年)  
1月10日  
金曜日